

# 旅行者から見たマイクロツーリズムによる有効性の検討

1210393 浅尾 天  
高知工科大学 経済・マネジメント学群

## 1. はじめに

### 1.1. 概要

本研究の目的は「マイクロツーリズム」の有効性を分析し、それらを踏まえたうえで今後の観光産業の方向性を提案することである。

その結果、県内旅行者が増加してきていることが明らかになりまた、マイクロツーリズムをさらに広めていくためには、地域愛や地域のアイデンティティを深めることが重要であるということが示された。

### 1.2. 背景

現在、日本にはたくさんの観光地があり国内、海外問わず多くの人で賑わっている。実際に平成 30 年にはインバウンド（海外から日本へ訪日する海外観光客を指す）の数が 3119 万人もの旅行者が訪日し、これは 6 年連続で過去最高を更新し、2020 年には 4000 万人を目標としている。



図1 訪日観光客数の推移

(出典: 日本政府観光局 月別・年別統計データ)

しかし、増加しているのはインバウンドだけではない。平成 30 年に東京都を訪れたインバウンドの数は約 1424 万人なのに対し、日本人旅行者数は約 5 億 3650 万人となっている。またこれは景気の回復にも繋がっており、観光業によって得た経済効果は図 2 のとおりである。

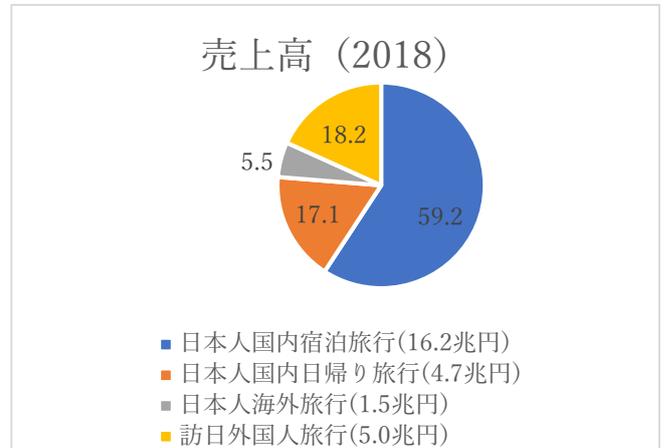


図2 2018 年度の旅行消費額

(出典: 国土交通省観光庁 統計情報・白書 経済波及効果)  
この“観光業”が日本の経済の一端を担っているといっても過言ではないことが伺える。しかし、2019 年 12 月、中国の武漢市にて新型コロナウイルスの発症が確認された。それは世界中に瞬く間に広がり、容易に海外旅行はもちろん、国内の旅行でさえできない状況になった。コロナウイルスの影響で今まで訪日プロモーション活動、MICE 誘致、ビジットジャパンキャンペーンを用いて、インバウンド旅行者をターゲットに観光業に力を入れてきた日本であるがインバウンド者数、旅行消費額共に減少しており、インバウンドの代わりになりうる対策が観光業の復興のために求められる。そこで私は「マイクロツーリズム」というものに着目した。着目した理由としてインバウンド、アウトバウンドの旅行者数が激減している。そして、日本は特にインバウンドに力を入れており、訪日プロモーション事業などを用いてインバウンド増加を図ってきた。このインバウンド政策は 2012 年から開始され、その訪日人数の推移は図の通りである。(図 1) を参照)。このように増加したのは円安の影響や LCC (格安航空会社) の背景もあるが、先述の PR 活動の影響もあり、毎年着実にその数を増加させていった。さらにインバウンドの増加だけでなく、その消費金額も増加している。

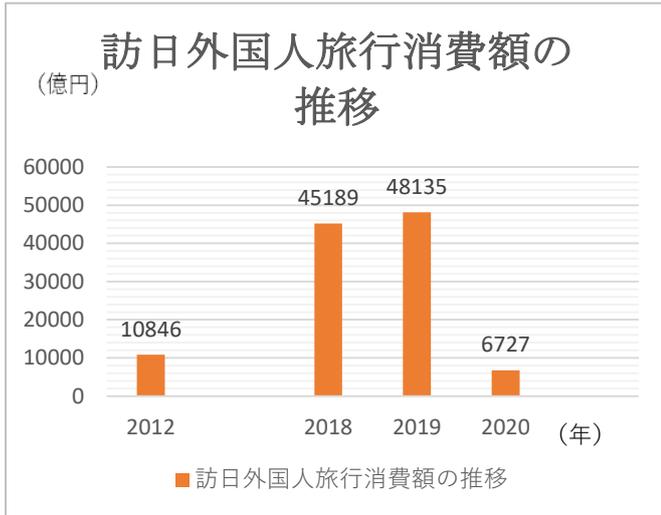


図3 訪日外国人旅行消費額の推移

(出典：国土交通省 観光白書 令和2年版より作成)

成)

故に日本は今まで旅行観光産業は訪日外国人を狙った外からのビジネスを展開していたが、これからは国内でのビジネスがポイントとなるのではないかと考えられる。

### 1.3. 目的

インバウンド政策の代わりになりうる政策として「マイクロツーリズム」に着目し、アンケート調査を元にマイクロツーリズムの有効性を明らかにし今後の観光業界の方向性を提案する。

### 1.4. 研究手順

本研究は、初めに新型コロナウイルスの前後の日本の観光産業の現状と問題点を把握する。

次に、「マイクロツーリズム」の取り組み事例を紹介する。マイクロツーリズムが実際に成功している例を挙げ、何故成功したのかアンケートを作成し、アンケートを実施した。それらを踏まえたうえで、マイクロツーリズムの有効性を分析する。そして最後に、その結果をもとに、「マイクロツーリズム」を踏まえた今後の観光業界の方向性を導く。

## 2. COVID-19 がもたらした様々な影響

### 2.1. 政府の COVID-19 に対する政策

これまで日本の経済の一端として担ってきた“観光業”であるが新型コロナウイルスが世界的に流行したためその勢いは著しく低下した。2019年12月、中国の武漢市で新型コロナウイルスが発症しそのウイルスは世界に脅威をもたらすものまでとなった。重度の肺炎などを引き起こす新型コロナウイルスは、SARS（サーズ）やMERS（マーズ）と同じコロナウイルスの仲間であり、コロナウイルスはヒトや動物の間で広く感染症を引き起こすウイルスであるが、今回のウイルスは既知のウイルスと一致しない新型のコロナウイルスである。新型コロナウイルスが発見されてから現在まで政府がどのような対策を取ったか表にまとめてみた。

表1

新型コロナウイルスが発見されてから現在までの政府の対策（2019年12月～2020年12月26日まで）

年度	出来事
2020年1月6日	中国 武漢で原因不明の肺炎
1月14日	WHO 新型コロナウイルスを確認
1月15日	日本国内で初めて感染確認
2月1日	湖北省からの外国人の入国を拒否
2月25日	政府が対策基本方針を発表
2月27日	韓国・大邱からの外国人の入国を拒否
4月7日	政府が緊急事態宣言を発出 7都道府県対象に5月6日まで
4月16日	政府が緊急事態宣言を全国に拡大
5月4日	政府の緊急事態宣言5月31日までの延長を決定
5月14日	政府が緊急事態宣言を39県で解除 8都道府県は継続
5月21日	緊急事態宣言を関西は解除 首都圏と北海道は継続
5月25日	緊急事態宣言の解除宣言
6月19日	都道府県またぐ移動の自粛要請 全国で緩和
7月22日	Go To トラベルキャンペーン開始
11月7日	北海道 ススキノで営業時間短縮など要請
11月24日	大阪府 27日から飲食店の営業時間短縮要請
11月25日	西村経済再生相 新型コロナ対策強化方針を示す
12月15日	Go To トラベル全国一時停止へ
12月26日	全世界からの外国人の新規入国28日から1月末まで停止

(出典：Yahoo ニュース、NHK新型コロナウイルス特設サイトより作成)

コロナウイルスの蔓延を防ぐため政府は様々な政策をとった。最初は4月7日に発表された「緊急事態宣言」である。これは、コロナウイルスの感染が都市部で急速に拡大している事態を受けて政府は東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都道府県を対象に「緊急事態宣言」を行った。しかし、政府は4月16日夜8時過ぎから総理大臣官邸で対

策本部を開き、「緊急事態宣言」を全国へ拡大した。当初、その期間は5月6日までだったが当時、新規感染者も増加しており、感染者の減少も十分なレベルとはいえ、5月31日まで「緊急事態宣言」の期間を延長した。また日本への入国制限も、ある特定の地域に14日以内に滞在歴がある外国人を入国不可にするなど、厳しい条件が課せられた。

そして、Go To トラベルキャンペーンといった国内旅行をする際に一定の割引を得られるサービスが7月22日に開始された。宿泊を伴う日帰りの国内旅行の代金総額の1/2相当額を国が支援する事業であり、給付額の内、70%は旅行代金の割引に、30%は旅行先で使える地域共通クーポンとして付与される。しかし、新型コロナウイルスの再拡大を受けて全国で一時停止された。また、Go To Eat キャンペーンというものも実施されその内容は、オンライン飲食予約サイト経由で期間中にキャンペーン対象店舗を予約・来店した消費者に対し、次回以降の予約・来店時に飲食店で使用できるポイントを付与するといったサービスである。昼食時間帯（6:00~14:59）は500円分、夕食時間帯（15:00~翌5:59）は1000円分のポイントが付与される。（現在は予算上限に達したため、Go To Eat キャンペーンのポイント付与対象の受付を終了）

このように新型コロナウイルスの流行を受けて様々な政策を行ってきた。

## 2.2 COVID-19によるインバウンドへの影響

コロナウイルスの出現によって旅行者はどう変化したか。まず、インバウンドの数をグラフで表してみた。

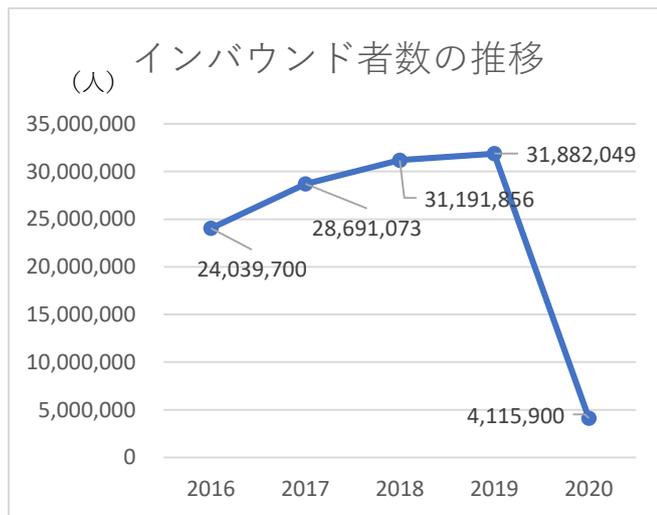


図4 インバウンド者数の推移

(出典：日本政府観光局 (JNTO) 月別・年別デ

ータより作成)

見ての通り、2020年の2月から低下し始めほとんど訪日する海外の観光客が見られないことが伺える。次にアウトバウンド（日本から海外へ旅行へ行く人たちのこと）の数を見てみよう。

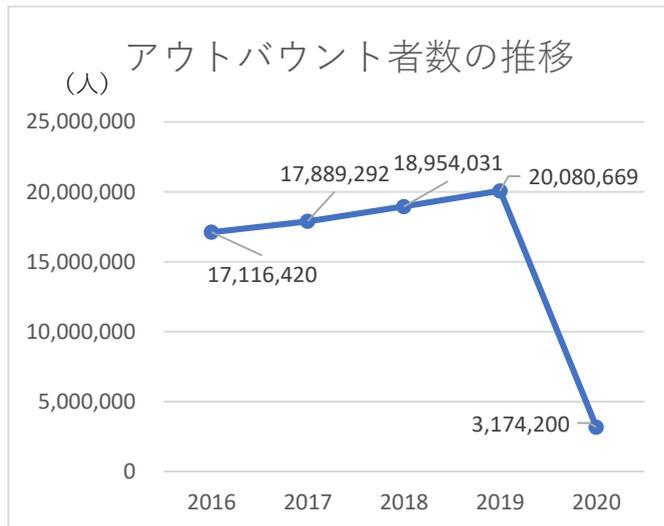


図5 アウトバウンド者数の推移

(出典：日本政府観光局 (JNTO) 2020

年12月推計値より作成)

表から伺える通り、政府が出したコロナウイルスの政策のため、アウトバウンド、インバウンドの数が減っている。（暫定値を含む）インバウンド、アウトバウンド共に減少しているということは、フライトの数も減少している。

やまごころでは、4月15日の成田国際空港と羽田国際空港の出発便と到着便を調べており、たとえば、羽田空港では出発全141便のうち12便は出発したものの、129便が欠航していた。運行した便でも旅客数が一桁台の便もあるという。IATA（国際航空運送協会）の発表でも、2020年第二四半期のスタートは世界で70%の減便、アジアで75%、欧州では90%の減便を予想。2020年の旅客数は前年比で48%減少する見込み、航空会社の旅客収入は前年比55%減となる3140億ドル（約33兆6700億円）の減収となる見込みとしている。

このように、インバウンド、アウトバウンド双方の減少、フライト数の減少など経済的に大打撃を受けている。

## 2.3 COVID-19による観光業への影響

このように新型コロナウイルスが発見されて政府はさまざま

まな対策を取った結果、インバウンドを含む旅行者、アウトバウンドが減少した。この減少は観光業全体にも影響を及ぼした。

一例として高知県では、2020年12月14日に新型コロナウイルスの再拡大を受け県内の飲食店などを対象に営業時間の短縮を要請することを決定した。対象は、接待を伴う飲食店の他にカラオケボックスやライブハウス、旅館やホテルの宴会会場も対象となった。期間は16日～30日までであり、午後8時から翌朝の5時まで休業するように求めた。また、新型コロナウイルスの感染対策も必須なため、急な環境の変化にも対応していくのが求められた。さらに、高知県のホームページでは宿泊施設における感染予防に必要な措置を掲げている。例えば、宿泊者に対して発熱等体調に異変が生じた場合は宿泊施設側に申し出るよう伝える、宿泊者への体温計の貸し出し等、宿泊者の健康管理への積極的な協力をお願いするなどしている。加えて宿泊施設独自の感染対策もしている。

旅行者を新たに引き付けるには何かしらの仕掛けが求められる。そのためには県内観光客をターゲットとした新たな観光モデルの実施が求められる。

そこで私は観光業界の新しいトレンドになりつつある「マイクロツーリズム」に着目した。

### 2.3. まとめ

- ・新型コロナウイルスの出現により政府はその感染拡大を防ぐために緊急事態宣言を発令し、日本への入国制限も行った。そのため、インバウンドのみならず、アウトバウンドの数も激減した。それに伴いフライトの数も激減。インバウンド頼みだった観光産業は大打撃を受けた。
- ・また、政府が取った新型コロナウイルスの対策により一時期の時短営業や急な感染対策を強いられるなどして、これらも観光業へ影響を与えた。

## 3. マイクロツーリズム

### 3.1. マイクロツーリズムとは

「マイクロツーリズム」は星野リゾートの星野佳路氏が提唱したものである。マイクロツーリズムとは、自宅からおよそ一時間圏内の地元や近隣への短距離観光を指す。さらに、2020年新型コロナウイルスの流行を背景に、県境をまたがずに三密を避けて安全に地域（地元）で過ごす旅としても注目されている。「旅」と聞くと海外や国内の遠方へ行くことがイ

メージされがちだが、マイクロツーリズムは名前の通り「小さい旅」を意味する。あくまでコロナウイルスの感染を拡大させないことを最優先に、地元・地域で安全に旅を楽しむことで県内の観光の内需喚起を行っていく考え方である。ポイントとしては、家から10分、15分、30分、1時間の範囲を観光する。地域の魅力を再発見してもらう。観光産業の雇用を維持する。この3つがポイントとなっている。

そして、マイクロツーリズムが注目されている現在、実際に地元民をターゲットにしたツアーも展開されている。一例をあげるとHISで実際に行われている鹿児島市で行われるツアーである。このツアーでは、グループ内に1名以上の鹿児島市内の在住者及び通勤・通学者がいることでツアーに参加でき、ツアーの内容も地元を楽しめる内容になっており、5つのツアーに分かれている。値段もかなり安く、最低2000円から5000円でツアーを楽しめるようになっている。（現在は終了）

### 3.2. マイクロツーリズムの特徴

星野リゾートによるとマイクロツーリズムの特徴として以下の4点があげられる。

#### 【特徴1 With コロナ期の旅行ニーズ=小さな旅行】

最初の特徴はWith コロナ期の旅行ニーズは小さな旅行ということである。この鹿児島市マイクロツーリズムのモニターツアーでは全て県内で行われているツアーであり食事やアクティビティなどもツアーの中に組み込まれており、地元の人に文字通り「小さな旅行」を満喫してもらえるような滞在を提供している。

#### 【特徴2 地域から学び「地域再発見」を提供】

2つ目の特徴は、地域から学び「地域再発見」を提供することである。このツアーの中でも地域の魅力を再発見するために様々な要素が組み込まれている。例えば、昼食に桜島を眺めながら薩摩料理を楽しむことができる。また他のツアーでは薩摩切子のガラスを使用した万華鏡作りなどを体験できる機会もある。

#### 【特徴3 感染拡大防止と地域経済を両立する観光】

3つ目の特徴は、「感染拡大防止と地域経済を両立する観光」ということである。

観光する際に気を付けなければならないことの一つが、感染拡大をしないということである。読売旅行が提供している、【高知県内発着】「時代(トキ)の夜明けのものがたり」おもてなし鉄道旅日帰り」というツアーでは、参加するお客様の健康状態をチェックするため旅行の当日に健康チェックシートを提出してもらうようにしている。また、旅行の当日に健康状態に問題がある旅行者の参加を控えてもらうように促している。このような感染を拡大させない取り組みもマイクロツーリズムの特徴の一つである。

#### 【特徴4 地域文化の作り手とネットワークを強め、運営力を高める】

そして、最後、4つ目の特徴は「地域文化の作り手とネットワークを強め、運営力を高める」ということである。現在高知県では「食べて！遊んで！高知家応援プロジェクト」の一環として地産地消キャンペーンを支援する新たな補助制度を創設した。例えば、天然温泉とご当地グルメをめぐる「奥四万十温泉郷スタンプラリー」というキャンペーンではキャンペーンの期間中、入浴や食事、宿泊に応じてスタンプが貰え、4スタンプを集めると入浴が一回無料、さらに抽選で宿泊券や入浴フリーパスなどが当たる。このように地域と繋がりを強く持つこともマイクロツーリズムの特徴の一つである。

さらに以下のような楽しみ方も提案されている。

##### 【1 ウェルネスツーリズム】

1つ目は「ウェルネスツーリズム」である。「旅×健康」をテーマに、旅先の地域の自然・資源との交流を取り入れた、心身の健康増進、リフレッシュとリラクゼーションを目的とした旅の形である。

##### 【2 ネイチャーツーリズム】

2つ目は「ネイチャーツーリズム」である。名前の通り、自然の中に身を委ねて楽しむ旅の形である。

以上の2つは、高知県の梶原町が提案している、森林セラピー（ウォーキング）があてはまる。延長3km近い道を水路と平行に進み、森林を映した流れがゆっくりと動く様を満喫できるような内容になっている。

##### 【3 ローカルキャンプ】

最後、3つ目は「ローカルキャンプ」である。キャンプ場の

企画・運営を手掛ける「株式会社 Recamp(リキャンプ)」は、自分が住んでいる地域にあるキャンプ場でキャンプをし、地元を楽しむ「ローカルキャンプ」を提案している。これに当てはまるのが、高知県の安田川の中地域に位置するキャンプ場だ。このキャンプ場ではそれぞれ季節に魅力があり一年中楽しめるようになっておりテントから寝袋など、キャンプに必要な道具がレンタル出来るようになっておりどんな方でも楽しめるようになっている。

### 3.3. マイクロツーリズムの成功事例

続いてマイクロツーリズムによる成功事例を見てみると、「星のや東京」、「星のや京都」「界 遠州」の事例が挙げられる。一例として「星のや京都」を見てみると、8月の稼働実績を昨年比で見ると、去年はインバウンドが47.3%と全体の半数近くを占めたのに対し、マイクロツーリズムは9.4%にすぎなかったが、今年はマイクロツーリズムが39.9%と、ゼロになったインバウンド消失分を埋めるのに貢献。稼働率も91.8%に達した。

「星のや東京」においても、昨年8月のマイクロツーリズムは9.2%にすぎなかったが、今年は53.0%と大幅な伸びを見せた。だが、東京は圧倒的なインバウンド市場であり、同施設のインバウンドは昨年ベースで77.2%にも上っていた。マイクロツーリズムだけではインバウンド消失分をカバーするには至らず、稼働率で見ると60%弱にとどまった。

静岡県・浜松で運営する「界 遠州」では、茶畑やお茶風呂などさまざまな滞在シーンでお茶の魅力を提案した結果、約6割が中部エリアのお客様となり、全体として稼働率90%を超える実績となった。リピート予定のお客様も多数お越しいただいているという結果に繋がった。

マイクロツーリズムが受け入れられているということが分かる。

### 3.4. 旅行者を対象としたニーズ調査

そこで私は何故マイクロツーリズムが成功を収めているか、どのような背景があり旅行者に受け入れられているかを調査するために新型コロナウイルス流行前と後を比較し、旅行者を対象にアンケートを行った。アンケート項目の設定は、国土交通省観光庁が行った観光客満足度調査を参考に作成した。

Google フォームを用いてweb アンケートを実施した。概要は

以下の通りである。

目的：コロナウイルス流行前後での県内、県外の旅行者の割合、それぞれの旅の目的やその変化を調査し「マイクロツーリズム」の有効性を調査するため。

方法：Google フォームを使用したインターネット調査法  
調査項目

・コロナウイルスが流行する前でお考え下さい。

① 県内と県外、どちらの方がより旅行に行きましたか？  
(海外は含めない)

・県内 ・県外

② ①で県内と答えた方に聞きます。

県内でどこに行きましたか？(例:高知市など)

③ ①で県内と答えた方に聞きます。

旅行する時の1番の目的は何ですか？(複数可)

・家族や仲間との時間を楽しむ ・保養、休養  
・体を動かして楽しむ ・食事 ・その他

④ ①で県外と答えた方に聞きます。

旅行する時の1番の目的は何ですか？(複数可)

・家族や仲間との時間を楽しむ ・保養、休養  
・体を動かして楽しむ ・食事 ・その他

⑤ 今まで旅行した時の良かった点を教えてください。(例:  
お店のサービスが良かった)

⑥ 今まで旅行した時の悪かった点を教えてください。(例:  
清掃が行き届いてなかった)

・コロナウイルスが流行した後でお考え下さい。

① 県内と県外、どちらの方がより旅行に行きましたか？  
(海外は含めない)

・県内 ・県外

② ①で県内と答えた方に聞きます。

県内でどこに行きましたか？(例:高知市など)

③ ①で県内と答えた方に聞きます。

旅行する時の1番の目的は何ですか？(複数可)

・家族や仲間との時間を楽しむ ・保養、休養  
・体を動かして楽しむ ・感染リスクを低くし観光したい  
・食事 ・その他

④ ①で県外と答えた方に聞きます。

旅行する時の1番の目的は何ですか？(複数可)

・家族や仲間との時間を楽しむ ・保養、休養  
・体を動かして楽しむ・感染リスクを低くし観光したい  
・食事 ・その他

⑤ コロナウイルスの流行後、旅行した際の良かった点を教えてください。

(例:感染対策がきちんとされていた)

⑥ コロナウイルスの流行後、旅行した際の悪かった点を教えてください。

(例:きちんと消毒されていなかった)

・今のご時世を踏まえてお答えください。

①新型コロナウイルスが流行する前と後を比べた時に、流行後の方が県内をより観光するようになった。

②新型コロナウイルスが流行している今日、県外より県内の観光の方が観光しやすい

③地元(車で1時間以内)で観光したことにより地元の魅力を再発見することができた

④県内を観光することによってもう一度そこへ行きたいと思うようになった。

### 3.5 アンケート結果

まず、コロナウイルスが流行する前、県内と県外どちらの方がより旅行に行ったか(海外は除く)といった質問では、9割以上の方が県外の方がより多く旅行へ行っていたと答えた。しかし、コロナウイルスの流行後、県内と県外どちらの方がより旅行に行ったか(海外は除く)といった質問では、流行前とは打って変わり、県外での旅行者は約4割にとどまった。

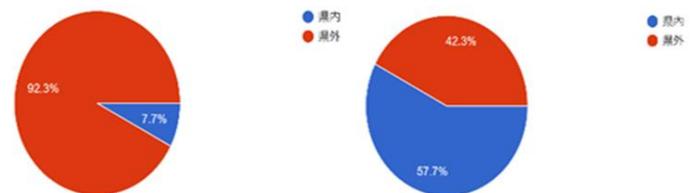


図6 コロナウイルス流行前後での県内、県外旅行の割合

(左が流行前、右が流行後)

(アンケート結果より作成)

さらに、コロナウイルスが流行前、県外へ行った旅行者の一番の旅の目的は、1番に、家族や仲間との時間を楽しむ、次点で食事という意見が多かった。

県内旅行者は、家族や仲間との時間を楽しむ、保養や休養が同率で、次点で食事だった。

しかし、コロナウイルスの流行後では、目的が少し変わっていた。流行後の県内旅行者では、家族や仲間との時間を楽しむ、食事が同率で次点に感染リスクを低くし観光したいという結果になり県外旅行者でも、一番は家族や仲間との時間を楽しむであり、それに続くのは感染リスクを低くし観光したいという結果が得られた。

コロナウイルス流行後、旅行した際の良かった点については、感染対策がきちんとされていた、人が少なく、自然に触れる機会が増えた、高知県の新たな魅力に気づけたといった結果が得られた。反対に悪かった点では、消毒されていなかった、マスクしていない人が多い、感染対策している風のところがあつたなど、感染対策がおろそかになっているところがあつたといったような結果が得ることができた。

最後に、今の新型コロナウイルスの流行の状況を踏まえて、いくつかマイクロツーリズムについての質問を行った。

新型コロナウイルスが流行している今日、県外より県内での観光の方が観光しやすいといった質問では、約80%であった。

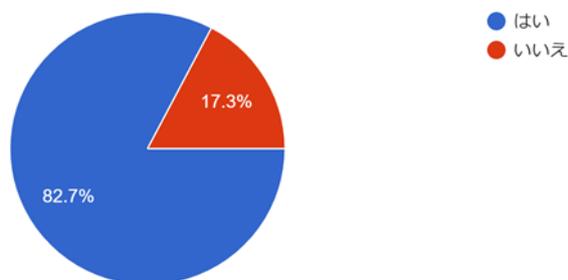


図7 新型コロナウイルスが流行している今日、県外より県内での観光の方が観光しやすい人の割合

(アンケート結果より作成)

地元(車で1時間以内)で観光したことにより地元の魅力を再発見することができたでは約70%であった。

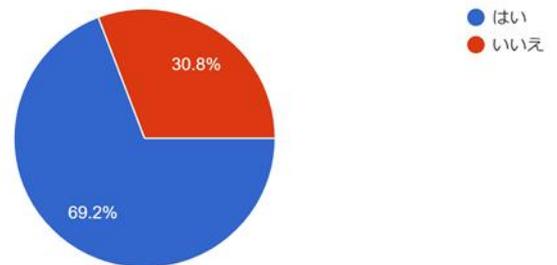


図8 地元(車で1時間以内)で観光したことにより地元の魅力を再発見することができた人の割合

(アンケート結果より作成)

県内を観光することによってもう一度そこへ行きたいと思うようになった。といった質問では、約65%の方が「はい」と答えた。

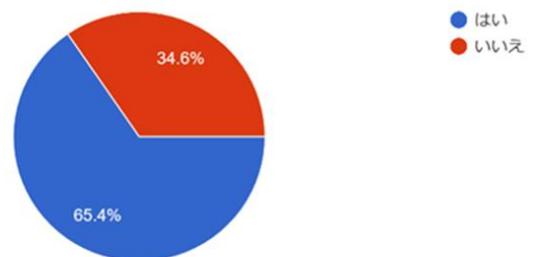


図9 県内を観光することによってもう一度そこへ行きたいと思うようになった人の割合

(アンケート結果より作成)

### 3.6. 県外旅行から県内旅行へシフトした旅行者の分析

さらに、コロナウイルス流行前は県外へより多く旅行へ行っていたが、流行後は県内での旅行が増えた旅行者はマイクロツーリズム化が進んでいるのではないかと考え、全体の回答と比較するため詳しく分析した結果、次のような結果が得られた。

対象：コロナウイルスの流行前は県外旅行がメインだったが、流行後は県内旅行の方が増えた旅行者

新型コロナウイルスが流行している今日、県外より県内での観光の方が観光しやすいといった質問では、92%であった。

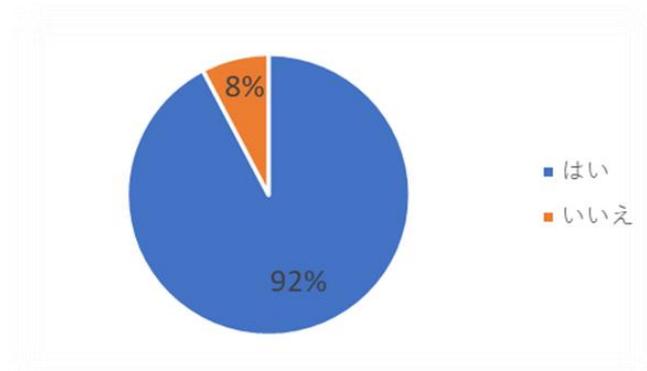


図10 新型コロナウイルスが流行している今日、県外より県内での観光の方が観光しやすい人の割合  
(アンケート結果より作成)

地元(車で1時間以内)で観光したことにより地元の魅力を再発見することができたのは約81%であった。

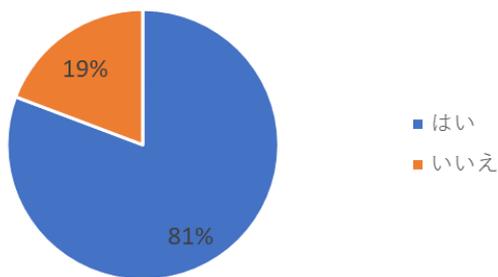


図11 地元(車で1時間以内)で観光したことにより地元の魅力を再発見することができた人の割合  
(アンケート結果より作成)

県内を観光することによってもう一度そこへ行きたいと思うようになった。といった質問では、約73%の方が「はい」と答えた。

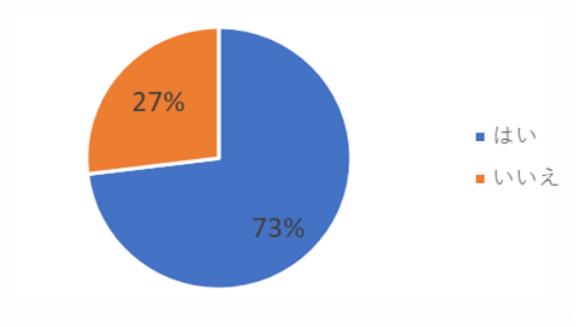


図12 県内を観光することによってもう一度そこへ行きたいと思うようになった人の割合  
(アンケート結果より作成)

全体のアンケートで得られた回答と比較してみると、全体より高い結果が得られた。

#### 4. マイクロツーリズムの有効性の検討

アンケート調査の結果により、コロナウイルスの流行前と後と比較したときに、流行後の方が県内を観光する旅行者が増加してきていることが明らかになった。また、地元の魅力を再発見する機会になり、もう一度地元を観光したいと思う旅行者も増加していることが明らかになった。

さらに、コロナウイルスの流行を受けて県外旅行より県内旅行の方が増加した旅行者を対象に詳しく分析した結果、全体と比較して県内旅行に魅力を感じている旅行者が多いことが分かった。このような結果になったのはコロナウイルスの流行前と流行後の目的の変化である。流行前の県外旅行での目的が一番多かったのは、「家族や仲間との時間を楽しむ」で18件、次に食事で11件、そして保養や休養という意見が3件であった。しかし、流行後県内旅行での目的は、「家族や仲間との時間を楽しむ」が16件、「食事」が次に多く13件、その次に「感染リスクを低くし観光したい」が9件、続いて「体を動かして楽しむ」が4件、「保養や休養」は2件という結果が得られた。このような流行前と流行後で目的が変化した理由は、新型コロナウイルスの感染を低くし観光したいという新たな目的ができたためではないのだろうか。

県内での旅行は県境を跨がずに旅行することができ県外旅行と比べて感染リスクを低くし旅行することができる。また県内での旅行は県外での旅行と比べ車での移動が多くなり、

電車やバスといった密になりがちな空間を意識的に避けることができ、人と接する機会も最低限抑えることができる。このような「感染する危険性」を最低限に抑えて旅行をしたと考える旅行者がコロナウイルスの流行後増加したため県外から県内へシフトした旅行者が増えたのではないのだろうか。さらに県内旅行者をさらに引き付けるには、アンケートで聞いた良かった点を維持し続け、悪かった点を改善する必要がある。具体的には、コロナウイルスの流行後で良かった点で最も多かった意見が、感染対策に関する意見だった。それと同時に悪かった意見の中でも、感染対策についての意見だった。コロナウイルスが流行している現在では、まずなによりも感染対策を徹底的に行うことが重要になってくるのではないのだろうか。いずれにしろ、コロナウイルス終息後も県内旅行者の確保はある程度見込めることができるということが本研究では明らかになった。またさらに、新型コロナウイルスの流行前と後の旅の目的を見てみると、その結果、「家族や仲間との時間を楽しむ」ということだった。この結果から述べることは、旅行者は家族や友人との時間を大切にし、より親睦を深めるために旅行をしているのではないのだろうか。旅行へ行く理由は「観光」と捉えられがちだが、今回、家族や友人との絆を深めることも旅行へ行く目的の一つであるということが明らかになった。

マイクロツーリズムは新型コロナウイルスが流行している現在、感染リスクを抑え旅行したい人にとって有効なのではないのだろうか。

## 5. 今後の観光産業の方向性

今後の観光産業の方向性としては、コロナウイルスが流行している現在、そしてコロナウイルスの終息後共に、県内からの旅行者をさらにひきつけ、またリピーターを確保するためには流行前での良かった点では、食事がおいしい、ホテルがきれいだったといった内容が多く、それぞれの地域に特化した地域性を向上させることでつながってくるのではないのだろうか。コロナの終息には長期間かかってしまうだろうと考えられる。よって、インバウンド旅行者の増加が見込めなくなってしまうであろう。そこでマイクロツーリズムを発展させるべきと思われる。地域のアイデンティティ、地域愛を深めてマイクロツーリズムを発展させるためにいくつかの策を提案したい。例えば、修学旅行を県外ではなく県内で行

うことや、県内でスタンプラリーを実施し、達成したら地域産品が送られてくるといったような制度だ。このような制度を実施することでマイクロツーリズムの発展が期待できるのではないのだろうかと考えられる。またもう一つの策としてパッケージツアーを展開していくことも重要になってくるのではないのだろうか。例えば、高知県で例えると、高知市なら市内で有名なひろめ市場で新鮮な魚を堪能、また、高知城や桂浜といった観光名所を観光する、そして日曜日であれば高知県ではとても有名な300年以上の歴史を持つ「日曜市」を体験、といった地域により焦点を当てたパッケージツアーを増やしていくことが、コロナウイルスが流行している現在、そしてコロナウイルス終息後共に、「マイクロツーリズム」を広めるための手段になりうるのではないのだろうか。

## 6. まとめ

本研究では、以下のことが明らかになった。

- ・新型コロナウイルスの流行前と後では明らかに流行後の方が県内を観光する旅行者が増加していた。
- ・流行する前での目的は、家族や仲間との時間を楽しむ、食事といった目的は多かったが、流行後ではそれに続き、感染リスクを低くし観光したいといった目的も少なくとも、旅行した際の良かった点では、感染対策がきちんとされていたといった意見が多く、また悪かった点でも感染対策がきちんとされていなかったという意見が多かった。このことから述べることは、流行している現在では、感染対策をきちんとすることが「マイクロツーリズム」を広めるために必要なことといえる。またその地域に特化したパッケージツアーを展開していくことが今後の「マイクロツーリズム」を広めるために一つの有効な手段になるかもしれない。

## 参考文献

平成30年訪都旅行者数等実態調査 | 統計・調査 | 東京都産業労働局 (最終閲覧日 2月10日)

<https://www.sangyo->

[rodo.metro.tokyo.lg.jp/toukei/tourism/h30-jittai/](https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/toukei/tourism/h30-jittai/)

「観光白書、インバウンド「20年4,000万人」目標記載なく：観光立国に向け、消費額拡大の取り組みも | 訪日ラボ」 (最終閲覧日 2月10日)

<https://honichi.com/news/2020/06/17/sightseeingbook/>

「国土交通省 観光庁観光産業課」(最終閲覧日 2月10日)

<https://www.mlit.go.jp/common/001271444.pdf>

「訪日外客数・出国日本人数データ | 統計・データ | 日本政府観光局」(最終閲覧日 2月10日)

[https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor\\_trends/](https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/)

「経済波及効果 | 統計情報 | 統計情報・白書 | 観光庁」

<https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/kouka.html> (最終閲覧日 2月10日)

「新型コロナウイルスとは? 新型肺炎の感染・予防について | Ag+のチカラで持続除菌 | 富士フイルム」(最終閲覧日 2月10日)

<https://sp->

[www.fujifilm.com/hydroag/column/019jokin\\_corona-virus.html](http://www.fujifilm.com/hydroag/column/019jokin_corona-virus.html)

「JTB 総合研究所 インバウンド 訪日外国人動向」(最終閲覧日 2月10日)

<https://www.tourism.jp/tourism->

[database/stats/inbound/](http://database/stats/inbound/)

「JTB 総合研究所 アウトバウンド 日本人海外旅行動向」(最終閲覧日 2月10日)

<https://www.tourism.jp/tourism->

[database/stats/outbound/](http://database/stats/outbound/)

「特設サイト 新型コロナウイルス 政府の対応や基本方針は | NHK」(最終閲覧日 2月10日)

<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/policy/?tab=1#mokuji20>

「新型コロナウイルス 各国の入国制限に関する一覧 (2021年1月7日 09:00 時点) | 日本橋夢屋」

<https://www.tokutenryoko.com/news/passage/6755>

「地元の魅力を再発見。With コロナ時代の新しい旅の形「マイクロツーリズム」とは? | Studio Nomad」(最終閲覧日 2月10日)

<https://studio-nomad.tokyo/micro->

[tourism/#:~:text=%E3%83%9E%E3%82%A4%E3%82%AF%E3%83%AD%E3%83%84%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0%E3%81%A8%E3%81%AF%E3%80%81,%E7%9C%8C%E5%A2%83%E3%82%92%E3%81%BE%E3%81%9F%E3%81%8C%E3%81%9A%E3%81%AB%E3%80%813%E5%](http://tourism/#:~:text=%E3%83%9E%E3%82%A4%E3%82%AF%E3%83%AD%E3%83%84%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0%E3%81%A8%E3%81%AF%E3%80%81,%E7%9C%8C%E5%A2%83%E3%82%92%E3%81%BE%E3%81%9F%E3%81%8C%E3%81%9A%E3%81%AB%E3%80%813%E5%)

[AF%86%E3%82%92%E9%81%BF%E3%81%91%E3%81%A6%E5%AE%89%E5%85%A8%E3%81%AB%E5%9C%B0%E5%9F%9F%EF%BC%88%E5%9C%B0%E5%85%83%EF%BC%89%E3%81%A7%E9%81%8E%E3%81%94%E3%81%99%E6%97%85%20%E3%82%92%E6%84%8F%E5%91%B3%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82](https://www.mlit.go.jp/common/001271444.pdf)

「マイクロツーリズムとは? 成功事例や宿泊施設側に必要な準備とは | BIGLOBE ハンジョー」(最終閲覧日 2月10日)

[https://hanjo.biglobe.ne.jp/tech/micro\\_tourism/](https://hanjo.biglobe.ne.jp/tech/micro_tourism/)

「【星野リゾート】星野リゾートが提案する「マイクロツーリズム」~地域の魅力を再発見し、安心安全な旅 With コロナ期の旅の提案~」(最終閲覧日 2月10日)

<https://www.hoshinoresorts.com/information/release/2020/05/90190.html>

「with コロナ時代の新たなアウトドアの楽しみ方 地元を楽しむ“ローカルキャンプ”を提案します | 株式会社 Recamp」(最終閲覧日 2月10日)

<https://www.recamp.co.jp/localcamp>

「星野リゾート」の現状にみる、GoTo トラベルの効果とは? | 旅行 | LEON レオン オフィシャル Web サイト」(最終閲覧日 2月10日)

<https://www.leon.jp/staytravel/44289?page=2>

「~With コロナ期の新たな旅の提案、取り組み実績を報告します~星野リゾートが提案する「マイクロツーリズム」(最終閲覧日 2月10日)

<https://www.hoshinoresorts.com/information/release/2020/09/106281.html>

「新型コロナウイルスによる航空業界への影響は? 減便・運休で航空各社大減収 1年続くと2兆円の可能性 | やまごころ.jp」(最終閲覧日 2月10日)

[https://www.yamatogokoro.jp/inbound\\_data/38098/](https://www.yamatogokoro.jp/inbound_data/38098/)

観光白書 - 国土交通省 (最終閲覧日 2月10日)

<https://www.mlit.go.jp/statistics/file000008.html>

インバウンド政策とは? ビジネスの参考になる活動・成果を紹介 | ホテル・宿泊業界情報コラム | おもてなし HR (最終閲覧日 2月10日)

[https://omotenashi.work/column/bits\\_of\\_knowledge/5773](https://omotenashi.work/column/bits_of_knowledge/5773)

旅行観光産業の大きなトレンドテーマ、「マイクロツーリズム」が巻き起こす新しい観光消費スタイルとビジネスの変化

- (最終閲覧日 2月10日)

<https://deha.co.jp/magazine/micro-tourism-a-trend-theme-of-the-travel-industry/>

コロナ禍におけるマイクロツーリズムのメリットとは？今後の展望を解説 | みんなの観光協会 (最終閲覧日 2月10日)

[https://minna-kanko.jp/travel/no\\_category/92141/2](https://minna-kanko.jp/travel/no_category/92141/2)

鹿児島市 マイクロツーリズムモニターツアー ～プライベートツアー～【HIS 国内旅行 鹿児島発】 (his-j.com) (最終閲覧日 2月10日) 現在は終了

<https://www.his-j.com/kokunai/bus/kojdep/kyushu.html>

マイクロツーリズムとは・意味 | 世界のソーシャルグッドなアイデアマガジン | IDEAS FOR GOOD (最終閲覧日 2月10日)

<https://ideasforgood.jp/glossary/micro-tourism/>

国土交通省 観光庁 観光満足度調査 (最終閲覧日 2月10日)

[000118453.pdf \(mlit.go.jp\)](https://www.mlit.go.jp/000118453.pdf)

日曜市 - 高知市公式ホームページ (city.kochi.kochi.jp) (最終閲覧日 2月10日)

<https://www.city.kochi.kochi.jp/site/kanko/nichiyouichi.html>

訪日外客統計 (報道発表資料) | 統計・データ | 日本政府観光局 (JNTO) (最終閲覧日 2月10日)

[https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/data\\_info\\_list/index.html](https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/data_info_list/index.html)

読売旅行 【高知営業所】国内旅行 [コース番号 880-1813] 【高知県内発着】「時代(トキ)の夜明けのものがたり」おもてなし鉄道旅日帰り [#20011829] (yomiuri-ryokou.co.jp) (最終閲覧日 2月10日)

<https://www.yomiuri-ryokou.co.jp/kokunai/detail.aspx?id=20011829>

地産地消キャンペーン一覧 ～食べて！遊んで！高知家応

援プロジェクト！～ | 高知県庁ホームページ (kochi.lg.jp) (最終閲覧日 2月10日)

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/120901/2020081200074.html>

森林セラピー (ウォーキング) | 体験 | 梶原町観光情報 (town.yusuhara.kochi.jp) (最終閲覧日 2月10日)

<http://www.town.yusuhara.kochi.jp/kanko/taiken/entry-494.html>

安田川アユおどる清流キャンプ場 | 安田町役場 (town.yasuda.kochi.jp) (最終閲覧日 2月10日)

<https://www.town.yasuda.kochi.jp/life/dtl.php?hdnKey=1307>

宿泊施設における新型コロナウイルスに関連した肺炎患者の発生に係る対応について | 高知県庁ホームページ (kochi.lg.jp) (最終閲覧日 2月10日)

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/131901/2020020300063.html>

Go To トラベル事業とは | 旅行者向け Go To トラベル事業公式サイト (jata-net.or.jp) (最終閲覧日 2月10日)

<https://goto.jata-net.or.jp/about/>

Go To Eat(イート)キャンペーン | 外食をポイントでお得に - 食べログ (tabelog.com) (最終閲覧日 2月10日)

<https://tabelog.com/go-to-eat/>